

7.3 プログラミング方法

パソコンソフトを使用する場合のシステム構成とユーザプログラムの作成手順を以下に示します。使用するパソコンとそのソフトウェアによってケーブル等が異なるので注意が必要です。

表 7.3 パソコンを使用する場合のシステム構成

No.	使用するパソコンソフト	DOS/V 機の場合	PC9800 シリーズの場合																														
1	LADDER EDITOR (Windows®版)																																
		<p>DOS/V 機パソコン (Windows®95/98/NT) LADDER EDITOR for Windows® (HLW-PC3,HLW-PC3E) システムディスク (日本語、英語)</p> <p>PC9800 シリーズパソコン (Windows®95/98/NT) LADDER EDITOR for Windows® (HLW-PC3) システムディスク (日本語)</p>																															
		CPU 設定		H-302 と指定してください。																													
		メモリ割付		RAM-04H(4 k メモリ)と指定してください。																													
		ケーブル(MICRO-EH 側)		EH-RS05	EH-VCB02																												
		ケーブル(パソコン側)		WVCB02H	WPCB02H																												
		ポート 1	10 点タイプ	DIP SW はありません(4800 bps 固定)																													
1, 2	14/23/28 点タイプ	<table border="1"> <tr> <th>DIP SW</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th></th> </tr> <tr> <td>状態</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>38.4k bps</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>19.2k bps</td> </tr> <tr> <td></td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>9600 bps</td> </tr> <tr> <td></td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>4800 bps</td> </tr> </table>	DIP SW	1	2	3	4		状態	ON	OFF	ON	OFF	38.4k bps		ON	OFF	OFF	OFF	19.2k bps		OFF	OFF	ON	OFF	9600 bps		OFF	OFF	OFF	OFF	4800 bps	同左
DIP SW	1	2	3	4																													
状態	ON	OFF	ON	OFF	38.4k bps																												
	ON	OFF	OFF	OFF	19.2k bps																												
	OFF	OFF	ON	OFF	9600 bps																												
	OFF	OFF	OFF	OFF	4800 bps																												
ポート 2	10/14 点タイプ	ポート 2 はありません。																															
	23/28 点タイプ	RS-422/485 のため上記構成では接続不可(RS-232C/422 変換器が必要)。伝送速度は特殊内部出力 (WRF03D) に設定してください。																															
2	LADDER EDITOR (DOS 版)																																
		<p>DOS/V 機パソコン (MS-DOS®) LADDER EDITOR DOS 版 (HL-AT3E) システムディスク (英語)</p> <p>PC9800 シリーズパソコン (MS-DOS®) LADDER EDITOR DOS 版 (HL-PC3) システムディスク (日本語)</p>																															
		CPU 設定		H-302 と指定してください。																													
		メモリ割付		RAM-04H(4 k メモリ)と指定してください。																													
		ケーブル(MICRO-EH 側)		EH-VCB02																													
		ケーブル(パソコン側)		PCCB02H																													
		ポート 1	10 点タイプ	DIP SW はありません(4800 bps 固定)																													
1, 2	14/23/28 点タイプ	<table border="1"> <tr> <th>DIP SW</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th></th> </tr> <tr> <td>状態</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>4800 bps</td> </tr> </table>	DIP SW	1	2	3	4		状態	OFF	OFF	OFF	OFF	4800 bps	同左																		
DIP SW	1	2	3	4																													
状態	OFF	OFF	OFF	OFF	4800 bps																												
ポート 2	10/14 点タイプ	ポート 2 はありません。																															
	23/28 点タイプ	RS-422/485 のため上記構成では接続不可(RS-232C/422 変換器が必要)。伝送速度は特殊内部出力 (WRF03D) に設定してください。																															

1: DR 信号 OFF 時に設定変更が可能、ON 時には設定が固定となります。

2: 特殊内部出力 (WRF01A) により伝送制御手順 1 に設定してください(デフォルト値は伝送制御手順 1)。

注意: 各ソフトウェア (LADDER EDITOR) のインストールや操作方法については各ソフトウェアの取扱説明書等を参照してください。

表 7.4 プログラム作成の概略手順の一覧表

項目	新規作成	変更	試運転・調整	
	オフライン	オフライン	オンライン	オンダイレクト
作業概略手順				
場面	プログラム新規作成時	プログラム変更時	作成プログラムを CPU へ初めて転送時	試運転中のプログラム変更時
ポイント	MICRO-EHの実機がなくてもプログラムの作成をすることができます。	他のHシリーズで使用したプログラムを利用する場合、CPUタイプをH-302に指定してください。	CPUエラーチェックを行う場合、実装したモジュールとI/O割付が一致するようにしてください。(実装読出機能にて強制的に一致させることができます)	オンダイレクトモードに入るにはパソコンとCPUのメモリ内容を一致させてください。以降変更した内容はパソコンメモリとCPUメモリの両方に反映されます。

1: メモリ割付ではフローサイズを0として下さい。
 フローサイズを指定してプログラム転送を行うと、「実行不可：操作エラー」のメッセージが表示され、周辺装置はWRITE占有したままになります。WRITE占有したままになった場合は、周辺装置のLADDER EDITORから占有解除を行うか、CPUの電源再投入を実施して占有を解除してください。